

Q プラスチックの使用を減らすために

おのの 大野 洋子 議員



A 資源循環型社会の形成を目的に5Rの取組を推進している

プラスチックごみの総量抑制を主眼に市の取組を問う。

問 市の会議でのペットボトル飲料の提供状況は。また、イベント等の配布啓発品をプラスチック以外の製品に切り替えていく考えは。

答 基本的に、市で行う会議では食糧費の予算計上がないので、ペットボトル飲料は提供していない。外郭団体等の会議にも啓発を進め

たい。啓発品については、今後はSDGsの視点からプラスチックを減らしていく方向も考えていく。

問 事業者及び市民団体と協働してレジ袋をなくす運動に取り組むために、協定を結ぶという考えは。

答 国でレジ袋有料化の動きがあるため、協定を締結すべきか、又は法的に実施される中で市がどうすべきかを考えていきたい。



問 使い捨てプラスチックの使用削減に取り組む活動を宣言することで市民アピールをする考えは。

答 地球にやさしいオフィス率先行動計画の見直しと併せて検討していく。

問 地域で環境活動をしている市民団体と、子どもたちが一緒に環境問題を考える授業はあるのか。

答 地域の方々の環境教育を紹介している「鶴ヶ島市環境学習プログラム」を参考に、各学校が進めていければよいと考えている。



Q 少子化時代に向けた活力ある学校教育

かないずみ たかこ 議員 金泉婦貴子

A 地域とともにある学校づくりを目指す



小学校での学び合い学習

NIE (エヌ・アイ・イー) …学校などで新聞を教材として活用すること。

問 学校施設再編に向けた規模の適正化の考え方は。また、鶴ヶ島市公共施設等利用計画等の公共施設関連計画の方向性は。

答 適正規模のメリットは、多くの出会いにより、社会性や協調性を身につけられること、教員数の確保と校務の配分により、児童・生徒に対する指導や教科学習の充実が図れること、学習や部活動等で多様な選択ができることなどがある。公共施設については、更新問題や借地の解消等に対応するため、鶴ヶ島市公共施設個別利用実施計画の策定に着手した。

問 秋田県横手市における言語活動の充実、指導主事による学校訪

問、NIEの推進などの学力向上の取組から学ぶことは。

答 成果を上げていくと聞くため、取組を研究していく。また、教員の指導力向上と教育委員会の施策の普及のため、指導主事が意図的に学校を訪問し、指導に努める。

問 少子化に対応した活力ある学校づくりをどのように進めるのか。

答 来年度から全小・中学校をコミュニティ・スクールとし、地域とともにある学校づくりを目指す。学校、保護者、地域で「目指す子ども像」を共有し、共に子どもたちを育む活力ある学校づくりに取り組む。